



# 桂小だより

KATSURA NEWS LETTER

6月号

令和3年5月28日

横浜市立桂小学校

Web: <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/katsura/>  
学校についての詳細や学校生活についてはHPをご覧ください。  
E-mail: [y3katura@edu.city.yokohama.jp](mailto:y3katura@edu.city.yokohama.jp) 桂小学校HPのQRコードはこちら→



## 交通安全教室

校長 寺澤 みゆき

本校では、避難訓練を中心とし毎月1回以上、安全に関わる教育活動を行っています。

6月は2回(2、3年生は防犯に関する安心教室を加え3回)「自分の身を自分で守る」学習を行います。今回の学校だよりでは、6月4日(金)に予定されている「交通安全教室」の意義と内容についてお話ししたいと思います。

保護者や地域の皆様も、ご自身の小学生時代に「交通安全教室」の参加経験がある方も多いのではないかと思います。私自身も、当時、学区内には信号機もない田舎育ちでした。しかし、「交通安全教室」の時だけは、校庭に横断歩道や信号機が準備され、歩行訓練や自転車の乗り方や整備方法について学習した記憶があります。

改めて、小学校における交通安全教室が行われるようになった時期や理由について、調べてみることにしました。

第二次世界大戦後(昭和20年以降)、人々の暮らしが豊かになってくると、国内において自家用車が急速に普及しました。ところが、当時の日本では歩道や信号機など安全面の整備が追いついていないことに加え、自動車への規制や取り締まりも不十分でした。そのため、歩行者、特に子どもと60歳以上の高齢者が巻き込まれる事故が高い割合を占めていたそうです。

統計資料によると、交通事故による年間死者数は1966年に1万4000人を超え、1970年には1万6800人にまで増えています。昨年(2020年)の交通事故による死者数が2839人であることから考えても、深刻な社会問題であることがうかがえます。そのような中、横断歩道の渡り方、自転車での通学方法などの指導を行い、教育の力で子どもを守ろうと、小学校での交通安全教室が行われるようになりました。そして、50年以上経過した現在も変わらず行われているということからも、子どもにとって大切な学習であることが分かります。

下部に示しました神奈川県警による過去5年間の統計グラフをみてみますと、年齢別の歩行中の死傷者数は、7歳が最も多いこと、また、歩行中の小学生の事故原因の6割が「飛び出し」であることが分かります。(資料参照)

そのようなことを踏まえ本校では、1年生は安全な歩行、4年生は正しい自転車の乗り方を、青葉警察署と保護者協力員の方々の力をお借りし、体験を伴う学習をします。また、2、3、5、6年生は動画の視聴後、教師が指導することで学習を行います。

ご家庭や地域におかれましても機をとらえ、交通ルールやマナーについて子どもにご指導、ご助言をいただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

